

## ヤモリ

内藤 真理子

我が家の台所に毎年、ヤモリがやって来る。台所の網入りのダイヤカットの窓ガラスにピタッと張り付く。ガラスは曇りガラスなので、鮮明に見えるわけではないが、恐竜を小型にしたような、小さな頭、細長い胴体、四方に広がる四本の吸盤のついた手足。

もう、可愛くて！ 来るたびにスマホで写真を撮ってしまう。

だが、今年は来るのが遅かった。炎天の暑い時期には一切見かけない。どうしたのだろうと思っていたら、ヤモリの赤ちゃんが、夜のトイレをうろついている。何処から入ったのだろう。

普段は曇りガラスの外にいたので、絶対に触れることがない為、安心して「可愛い〜」なんて言っているのに、私の頭や肩の上に落ちてくるかもしれないと思ったら、慌てて飛び出し戸を閉めてしまった。

そして、次の日にはおっかなびっくりトイレ掃除。ヤモリは居ない。何処から出て行ったか分からないが、ひとまず安心していい。

それから一週間、ヤモリのことをすっかり忘れていたら、廊下の隅っこでぐったりしているのを発見。そばで音を立てるが動かない。「ああ、昇天したのだ」

だが、このヤモリの親や兄弟はどこにいるのだろう、もしや我が家の天井裏辺りに巣があるのでは……と考えると怖ろしいが、とりあえず、この子は捨てるつもりでティッシュやビニール袋を持って行って見る。

「あら、動いている」。まだ生きていたのだ。そこで方針変更。ティッシュでそっとつかんで、窓の外に放してやった。

その夜。台所で夕食の後片付けをしていると、目の前のザラザラガラスに赤ちゃんのヤモリが張り付いている。あの子だろうか？

横から大人のヤモリがヌスツと現れた。

今年は異常気象の所為か、ヤモリが全く現れなかったのに……。赤ちゃんの親？ だが、お互いに近づかない。そこに小さなナメクジがやってきて、急速にヤモリの赤ちゃんに近づいた。何で？ 目が離せない。大ヤモリは知らんぷり。

と赤ちゃんヤモリが逃げだした。その速いこと。生存競争厳しいね。